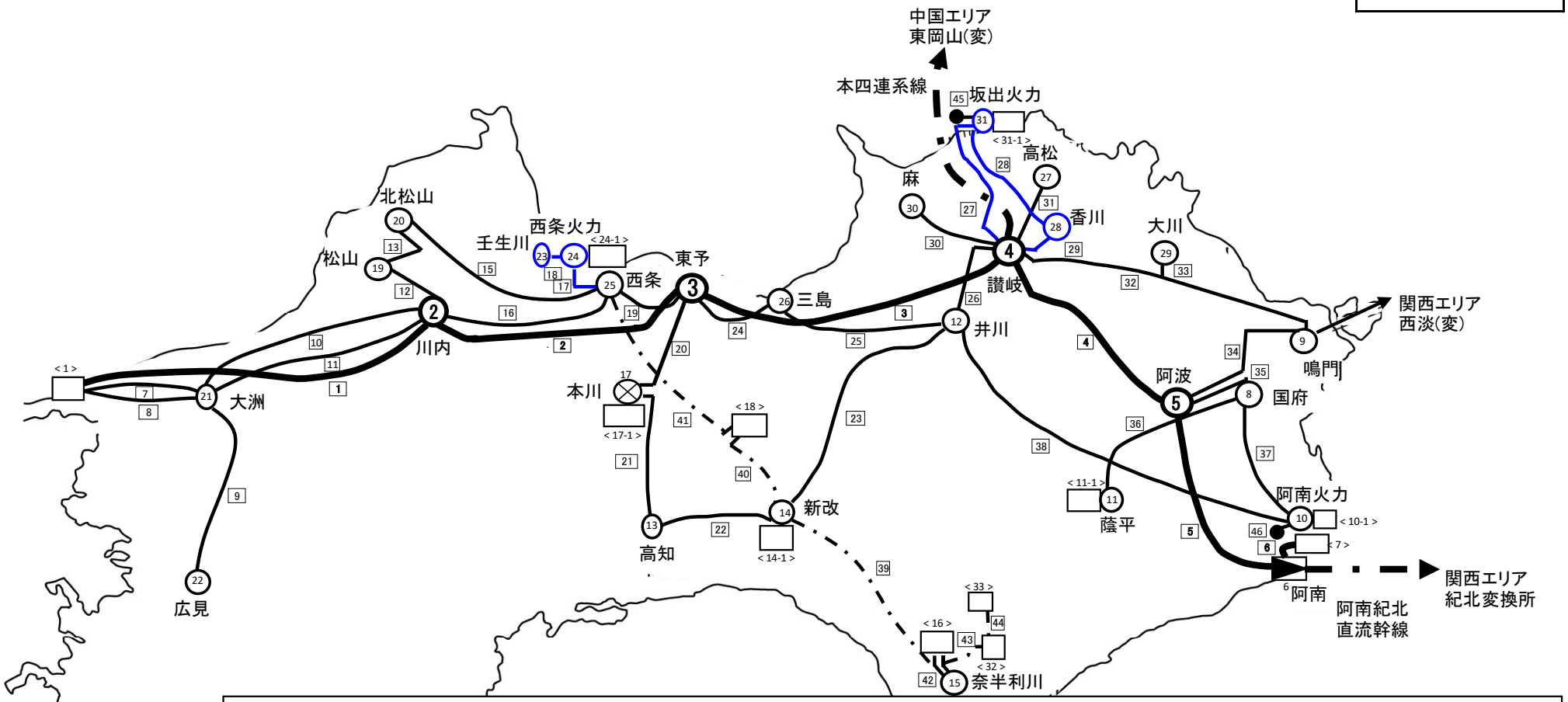
［四国エリアの送電系統　（187kV以上の特高系統）］

【2026年11月1日更新】



【凡例】

- :発電所（シミュレーション精度向上のための情報提供あり）
- :発電所（上記以外）
- :直流変換所
- :187kV開閉所
- :500kV変電所
- :187kV変電所
- :その他
- :500kV送電線
- :187kV送電線
- :他社設備

□ 内数値は送電線番号
〈 〉内数値は発電所番号
◯ 内数値は電気所番号(6,17のみ枠外に記載)

【凡例の色分け】

黒色：平常時出力制御*1が発生する可能性が当面低い系統
赤色：配電用変電所の空き容量が無い系統
　　一括検討プロセス実施中の系統
　　増強工事中の系統
青色：平常時出力制御が発生する可能性のある系統
　　平常時出力制御が発生する可能性については、想定潮流の合理化の考え方*2に基づいた将来の発電機出力・電力需要から想定しております。

*1　系統容量の制約による出力制御
*2　https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330_souteichoryu_gourika_shiryou.html

（留意事項）
今後の増強工事等を反映した設備がある場合、工事等の完了までの間は記載内容と異なる場合があります。
対象設備については一覧表の備考欄をご確認ください。

転載禁止　四国電力送配電株式会社

【留意事項】

(1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。
※1 1回線送電線(1バンク変電所)のため1回線(1バンク)設備容量を記載
※2 4回線送電線(4バンク変電所)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し3回線(3バンク)分の容量を記載
※3 1回線(1バンク)故障時の電源抑制や系統切替を前提に時間を限定して使用できる設計上の熱容量を考慮
※4 ループ系統構成(電源線を含む)を考慮
※5 その他設備を考慮

(2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。

(3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。

(4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。なお、N-1電制は費用便益評価により設置判断されるため、N-1電制適用可であっても、設置されるとは限りません。また、適用不可の場合の理由は以下のとおりです。
＃1 基幹系ループ系統のため
＃2 安定度制約のため(制約が確認できているもの)
＃3 1回線送電線(分割運用含む)のため
＃4 1バンク変電所(分割運用含む)のため

(5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。

(6) 平常時出力制御が必要となりうる設備欄は、平常時出力制御が発生する可能性について、想定潮流の合理化の考え方＊に基づいた将来の発電機出力・電力需要から想定し、該当設備を記載しております。
＊https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330_souteichoryu_gourika_shiryou.html

(7) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。

(8) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。

(9) 既設電源アクセス線に新規電源が連系する際、系統増強が必要になる場合があります。詳細については、系統アクセス検討の中でお示しします。
※電力広域的運営推進機関が公表している「系統の接続および利用ルールについて～ノンファーム型接続～＊」でも、新規電源連系時のアクセス線等の取扱いが整理されています。
＊https://www.occto.or.jp/grid/business/setsuzoku.html#non-firm

(10) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開しておりません。

(11) 個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量、運用容量値、N－1電制適用可否、N－1電制適用可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。

(12) 潮流値は、アップ潮流最大時の潮流を現時点で想定される条件において算出したものであり、実際の潮流値と異なる可能性があります。

(13) 個別需要が分かる専用線等や電源が1ユニットのみの電源線については第三者情報を排除するよう加工処理をしております。

(14) 送電線の予想潮流の数値は、潮流方向に記載している向きを正数として記載しています。また、変圧器予想潮流の数値は、高圧側から低圧側に流れる方向を正数として記載しています。

(15) 当社の公開する系統アクセス情報を利用される方が本情報を用いて行う一切の行為について、当社は責任を負いません。

送電線No	送電線名	電圧(kV)	回線数	設備容量(100%×回線数)(MW)	運用容量値(MW)	運用容量制約要因	潮流方向	予想潮流(MW)	空容量(MW)		N−1電制適用可否	N−1電制適用可能量(MW)	平常時出力制御の可能性	平常時出力制御の可能性がある設備		備考
									当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系設備	
1	四国中央西幹線	500	2	−	−	熱容量	―	−	−	−	−	−	−	−	−	◇
2	四国中央中幹線	500	2	6,580	2,060	安定度限界	変2→変3	1,427	−	−	不可＃1	−	−	−	−	
3	四国中央東幹線	500	2	6,580	2,060	安定度限界	変3→変4	1,880	−	−	不可＃1	−	−	−	−	
4	阿波幹線	500	2	6,580	2,530	安定度限界	変5→変4	2,505	−	−	不可＃1	−	−	−	−	
5	南阿波幹線	500	2	6,580	2,530	安定度限界	阿南変換所→変5	2,505	−	−	不可＃1	−	−	−	−	
6	橘湾火力線	500	2	5,732	3,290	熱容量	<7>発電所→阿南変換所	2,645	−	−	可	0	−	−	−	
7	伊方北幹線	187	2	−	−	熱容量	―	−	−	−	−	−	−	−	−	◇
8	伊方南幹線	187	2	−	−	熱容量	―	−	−	−						
9	広見線	187	2	1,116	638	熱容量	変22→変21	555	−	−	不可＃2	−	−	−	−	※3
10	大洲北幹線	187	2	1,116	1,914	熱容量	変21→変2	774	−	−	可	250	−	−	−	※2，3
11	大洲南幹線	187	2	1,116		熱容量	変21→変2		−	−						
12	松山幹線	187	2	1,420	808	熱容量	変2→変19	368	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
13	松山西線	187	2	710	404	熱容量	変19→変20	84	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
15	松山東線	187	2	906	494	熱容量	変25→変20	183	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
16	川内幹線	187	2	1,384	790	熱容量	変25→変2	258	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
17	西条火力線	187	2	1,638	963	熱容量	変24→変25	1,075	−	−	可	0	有り	対象	−	※3
18	壬生川線	187	2	702	398	熱容量	変23→変24	292	−	−	可	0	有り	−	基送17	※3
19	西条線	187	2	1,660	948	熱容量	変25→変3	552	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
20	本川線	187	2	1,420	760	熱容量	変3→変17	-503	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
21	高知幹線	187	2	1,420	808	熱容量	変13→変17	285	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
22	新改高知線	187	2	710	404	熱容量	変14→変13	-120	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
23	新改幹線	187	2	448	412	熱容量	変14→変12	299	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
24	三島西線	187	2	1,242	621	熱容量	変3→変26	239	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※5
25	三島東線	187	2	710	404	熱容量	変26→変12	230	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
26	吉野川線	187	2	710	504	熱容量	変12→変4	497	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
27	讃岐坂出線	187	2	968	1,224	熱容量	変31→変4	1,434	−	−	可	0	有り	対象	基送29	※4
28	坂出火力線	187	2	968		熱容量	変31→変28		−	−						
29	香川線	187	2	448	448	熱容量	変4→変28	-600	−	−	可	0	有り	対象	−	※4
30	麻線	187	2	1,420	808	熱容量	変4→変30	-131	−	−	可	250	−	−	−	※3
31	高松線	187	4	1,420	1,212	熱容量	変4→変27	-187	−	−	可	208	−	−	−	※2，3
32	讃岐鳴門線	187	2	2,232	1,276	熱容量	変4→送32 No.69	184	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
			2	2,232	1,276	熱容量	送32 No.69→変9	149	−	−						
33	大川支線	187	2	1,116	638	熱容量	送32 No.69→変29	153	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
34	阿波鳴門線	187	2	1,846	923	熱容量	変5→変9	252	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※5
35	阿波国府線	187	2	1,846	923	熱容量	変8→変5	258	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※5
36	陸平線	187	1	224	224	熱容量	変11→変8	89	−	−	不可＃3	−	−	−	−	※1
37	阿南火力線	187	2	896	877	熱容量	変8→変10	-257	−	−	可	250	−	−	−	※4
38	阿南幹線	187	2	710		熱容量	変12→変10		−	−						
39	長山線	187	1	171	171	熱容量	送39 No.1→<16>発電所	-146	−	−	不可＃3	−	−	−	−	*1、※1
			1	171	171	熱容量	新改開閉所(変14)→送39 No.1	-146	−	−						
40	伊新線(新改)	187	1	224	224	熱容量	<18>発電所→新改開閉所(変14)	103	−	−	不可＃3	−	−	−	−	※1
41	伊新線(伊予)	187	1	224	224	熱容量	<18>発電所→伊予開閉所(変25)	66	−	−	不可＃3	−	−	−	−	※1
42	奈半利川支線	187	2	448	224	熱容量	送39 No.1→変15	0	−	−	不可＃3	−	−	−	−	*1
43	二又線	187	1	−	−	熱容量	―	−	−	−	−	−	−	−	−	◇
44	魚梁瀬線	187	1	−	−	熱容量	―	−	−	−	−	−	−	−	−	◇
45	需要家線	187	2	−	−	熱容量	―	−	−	−	−	−	有り	−	基送27，28，29	◇
46	需要家線	187	1	−	−	熱容量	―	−	−	−	−	−	−	−	−	◇

*1 2028年11月以降の想定を記載しており、それ以前は記載内容と異なる場合があります。また、今後の電源連系等に伴い変更となる場合があります。

変電所No	変電所名	電圧(kV)		台数	設備容量(100%×台数)(MW)	運用容量値(MW)	運用容量制約要因	予想潮流(MW)	空容量(MW)		N-1電制適用可否	N−1電制適用可能量(MW)	平常時出力制御の可能性	平常時出力制御の可能性がある設備		備考
		一次	二次						当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系設備	
2	川内変電所	500	187	2	1,425	784	熱容量	−	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
3	東予変電所	500	187	1	713	713	熱容量	-453	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※1
4	讃岐変電所	500	187	2	1,425	784	熱容量	-386	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
5	阿波変電所	500	187	2	1,425	784	熱容量	-262	−	−	不可＃1	−	−	−	−	※3
8	国府変電所	187	66	2	570	313	熱容量	-347	−	−	可	223	有り	対象	−	※3
9	鳴門変電所	187	66	2	570	313	熱容量	-270	−	−	可	250	−	−	−	※3
10	阿南火力変電所	187	66	3	390	251	熱容量	-309	−	−	可	81	有り	対象	−	※3
11	蔭平変電所	187	66	1	38	38	熱容量	−	−	−	不可＃4	−	有り	対象	−	※1
12	井川変電所	187	66	2	237	151	熱容量	-227	−	−	可	10	有り	対象	−	※3
13	高知変電所	187	66	2	570	327	熱容量	-256	−	−	可	243	−	−	−	※3
			110	1	190	190	熱容量	-171	−	−	不可＃4	−	−	−	−	※1
14	新改変電所	187	66	3	446	294	熱容量	-326	−	−	可	120	有り	対象	−	*1、※3
15	奈半利川変電所	187	66	2	152	65	熱容量	0	−	−	可	87	−	−	−	*1、※3
19	松山変電所	187	66	2	570	327	熱容量	-63	−	−	可	243	−	−	−	*3、※3
20	北松山変電所	187	66	2	570	313	熱容量	-139	−	−	可	250	−	−	−	※3
21	大洲変電所	187	66	2	332	163	熱容量	-222	−	−	可	110	有り	対象	−	※3
22	広見変電所	187	66	2	380	190	熱容量	-373	−	−	可	0	有り	対象	−	※3
23	壬生川変電所	187	66	3	522	351	熱容量	-216	−	−	可	171	有り	−	基送17	※3
24	西条火力変電所	187	66	2	285	151	熱容量	-27	−	−	可	134	有り	−	基送17	※3
25	西条変電所	187	66	2	237	104	熱容量	-139	−	−	可	98	−	−	−	※3
26	三島変電所	187	66	3	522	365	熱容量	-204	−	−	可	157	−	−	−	※3
27	高松変電所	187	66	3	855	655	熱容量	-251	−	−	可	200	−	−	−	※3
28	香川変電所	187	66	3	570	320	熱容量	-240	−	−	可	250	有り	−	基送27, 28, 29	*2、※3
29	大川変電所	187	66	1	190	190	熱容量	-182	−	−	不可＃4	−	−	−	−	※1
30	麻変電所	187	66	3	760	532	熱容量	-205	−	−	可	228	−	−	−	※3
31	坂出火力変電所	187	66	2	285	156	熱容量	-295	−	−	可	0	有り	対象	基送27, 28, 29	※3

*1 2028年11月以降の想定を記載しており、それ以前は記載内容と異なる場合があります。また、今後の電源連系等に伴い変更となる場合があります。

*2 2030年3月以降の想定を記載しており、それ以前は記載内容と異なる場合があります。また、今後の電源連系等に伴い変更となる場合があります。

*3 2026年10月以降の想定を記載しており、それ以前は記載内容と異なる場合があります。また、今後の電源連系等に伴い変更となる場合があります。